あだっこ

五條市立阿太小学校だより
平成 29 年 6 月 22 日
第９号

あかるく元気な子　だれにも親切な子　しっかり考える子　ことばを大切にする子

ぼくのニセモノをつくるには

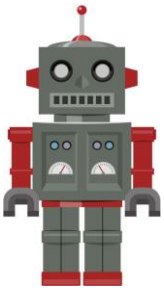
〇いよいよ梅雨も本番！と思わせるような天候になってきました。雨の日は、じめじめしてうっとうしい気分になりがちですが、こんな時こそ読書のチャンス！

よい本を読めば　優しい気持ちが　心にたまる
よい本を読めば　正しい気持ちが　心にたまる
よい本を読めば　強い力が　心にたまる
よい本を読めば　広い知識が　心にたまる

という言葉もあります。多くの本と出会うことで、人として大切な心を育ててほしいと思います。

〇ところで、図書室でこんな本を見つけました。

絵本『ぼくのニセモノをつくるには』（ヨシタケシンスケ作　ブロンズ新社）



宿題・お手伝い・部屋の掃除などやりたくないことだらけでゲンナリしていた小学３年生のけんたくんが、**「ぼくのニセモノをつくって、そいつにぜんぶやってもらおう」**と思いつき、ロボットを１体買って、それがニセモノとばれないように自分の特徴を教えていきます。

ぼくは、「外からみるとこんなかんじ」「すきなものときらいなものがある」「できることとできないことがある」・・・などなど。でもそうしているうちに、しだいに「ぼくとは何か」を考え始めます。

そして…

まいとし背がのびているから、ぼくはまだ「つくりとちゅう」だ。きもちはコロコロかわっていろんなぼくになるけれど、ぜんぶぼくだ。そしてぼくはひとりしかいない。ということに気付きます。また、おばあちゃんが言ってた**「にんげんはひとりひとり、かたちのちがう木のようなものだ。じぶんの木のしゅるいは生まれつきだからえらべないけど、それをどうやってそだててかざりつけするかは、じぶんできめられる。木の大きさとかはどうでもよくて、じぶんの木を気にいってるかどうかがいちばんだいじらしい」**という言葉を思い出し、自分という存在について改めて深く見つめるようになっていきます。

〇こうした本と出会って、自分という木をどう育てるか、一人一人が胸をふくらませてほしいと思います。そして、将来に明るい希望をもって一歩一歩着実に歩んでほしいと思います。

この絵本は、今年の５月５日、朝日新聞「天声人語」で紹介されていたものです。その「天声人語」の最後にこんな文章が書かれていました。

手塚治虫は子どもたちを「未来人」と呼んだ。子どもはわれわれ大人よりも少し進歩しているはずだから、彼らの夢を大事にしなければと語っていた。どんな大人も昔は子ども。いまの子どもたちの未来が明るくなるかどうかは、「元子ども」たちの振る舞いにかかっている。

※子どもたちの学校での様子等をブログで紹介しています。阿太小学校ＨＰを開いて「ブログ」をご覧ください。スマホ等でも見ることができます。